誇りと意地かけ勝負

宇都宮CCで26日 県クラブ対抗ゴルフ

31チーム、一打にしのぎ

県内トップアマが所属ゴルフ場の名誉を懸けて団体戦で争う「第2回県クラブ対抗競技大会」が26日、宇都宮市の宇都宮CCに31クラブが参加して開催される。県内ゴルフ界の活性化を目的に、県ゴルフ場協議会と県ゴルフ場支配人会が昨年から開催。初代王者に輝いたアローエースGCが連覇を飾るのか、連覇を阻止するチームが現れるのか興味は尽きない。（井上孝男）

熱戦の舞台となる宇都宮CCの南8番パー3

2018年10月に設立された県ゴルフ振興基金を活用して開く、同様の大会は関東ゴルフ連盟が主催する「関東県対抗戦」が毎年開催され、県内でも予選が行われている。

優勝チームに贈られる大型カップ

が、新たな団体戦として誕生。前回は4月開催予定だったが、新型コロナウイルスの影響で秋開催に変更。今年4月に女子の部が初開催され、男子は秋開催で先着させた。

かつては「都道府県アマ選手権大会」が県代表に開催され、県内でもOBが母校の名誉を懸けて競う「高校OB大会」があったが18回で終了。37回の歴史を刻んだ「全国都道府県対抗アマ選手権」も一昨年で幕を下ろすなど、団体戦が少なくなる中での大会設立。全国有数となる37カ所のゴルフ場がある本県で、その頂点に立つのはどのクラブか！

■競技方法■

出場クラブはAクラス（1951年12月31日生まれまで）、Bクラス（1961年12月31日生まれまで）、Cクラス（20歳以上）各2人の計6人で編成。18ホールストロークプレーで上位5人の合計スコアで争う。タイの場合は6人目のスコアで決定。それでも同じ場合は1位のスコアから順に比べる。使用コースはAクラスが北・中コース（5841ヤ）、Bクラスが中・南コース（6072ヤ）、Cクラスが南・北コース（6437ヤ）。いずれもパー72。

V2狙うアローエース

鹿沼72、那須も布陣充実

初代王者のアローエースGCがさらに戦力を強化し、連覇が濃厚となっている。県知事杯二階堂賞男子の歴代優勝者である武田幸雄（Bクラス）を核に、今年の県知事杯シニアを制したBクラスの松村茂をCクラスで起用。今回もこの二枚看板で連覇を目指す。

この2人に続く上位に食い込んでいる奇岡誠（B）と竹沼清人（A）が参戦。さらに今年の県知事杯グランドシニア2位の“県北の業師”磯部一が新たに加わり申し分のない布陣となった。

追う1番手は昨年8打及ばず2位に甘んじた鹿沼72。大福良幸司（A）、山形清作（B）ら昨年のメンバー5人が健在。さらに第26回県アマ王者の児矢野政勝が入り、選手層は厚みを増した。

前回3位の那須CCも有力視されている。県知事杯グランドシニアの部2度優勝の高久弘（A）、前回Aクラスベストグロスに輝いた機信広の2人を中心に、Bクラスには第9回県シニア覇者の平山正郎と充実している。

台風の目となりそうなのが矢板CCと鹿沼プレミアCCだ。矢板はともに県知事杯優勝者でCクラスの後藤貴浩と張田巧が軸。さらにBクラスには県シニアを制している和光利一、飛ばし屋大島学司、Aクラスには安定している龍巨邦男と隙のないメンバーをそろえた。

鹿沼プレミアはCクラスに県大会11勝の半田裕一、Bクラスに県知事杯シニア2度優勝の一枚看板のほか、巧者添田修司を加えて、上位をうかがう。

このほか前回4位のディアレイクGC、5位の鹿沼ごなどの上位進出が有力視されている。鹿沼は4月の女子の部を制し、2冠に挑む。

熱戦の舞台・宇都宮CC　開場60年の名門

県内7番目のゴルフ場として1961年7月にオープン。18ホールだったが、66年に南コースが開設となり、27ホールとなった。歴史あるコースにふさわしいベント、高麗の2グリーン。バンカー数は132。距離は5千ヤードと長くはないが難しいグリーンがプレーヤーを悩ませる。典型的な丘陵コース。

桜の木が多く、春先はお花見を兼ねたゴルファーが多く訪れる。名物ホールは「二百三高地」と呼ばれる第3打地点から急激な上りとなる中コース8番パー5。

開場当時はNTT氏の人気者「私の秘密」の池部良、宮田輝らレギュラー陣のコンペ、「けっこう会」が定期的に開催されていた。2004年6月には中コース7番パー4に軽飛行機が不時着し、ニュースになった。